

私の本棚

▶「マザーツリー 森に隠された『知性』をめぐる冒険」
(スザンヌ・シマード著、三木直子訳、ダイヤモンド社)

何世代にもわたり、森の木を伐って生きてきた家族に生まれた少女が森と共に育ち、やがて、本当の森の姿を知りたくて研究者となる、森はそんな彼女に大きな秘密を明かしてくれる。というとおとぎ話のようだ



アクサ生命保険社長

安淵 聖司氏

が、本書は科学的発見により、私たちの森の見方を変えた森林生態学者が誕生する物語だ。

著者は大学卒業後、森林局の造林研究員になるが、そこでの森林の管理方法に納得がいかず、研究の道に入る。

森の木々の根を掘り返した体験から、「森は単なる木の集合ではなく、根や、根に絡んでいる菌糸でつながっているのではないか？」という、当時突拍子もないと思われた仮説を著者は実際に検証した。その結果、「菌根菌」が地下のネットワークを巡らせ、同じ種類の木のつながりに加え、異なる種類の木々の間でも、水や炭素などの交換が行われていることを科学的に証明したのだ。

この発見から、著者は森のつながりを維持し、再生力を守るプロジェクトを進め、林業も変わりつつある。

自然の声を聴き、自然から学ぶ。少し希望が見えてきた。